



令和8年度

亀山市立川崎小学校 研究デザイン



教育大綱 基本方針ーI

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上を進める。

1 川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

2 学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」

- ・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる
- ・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

- ① 「川崎小学校十か条」を実行する子
 - ② 自ら進んで学習し、思いを伝える子
 - ③ 違いを認め、受け入れる子
 - ④ 心身共に健康で、命を大切にする子
 - ⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にする子
- ☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

- ① 児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員
 - ② 創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員
 - ③ 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員
- ☆明るく、仲良く、元気よく☆

3 研究主題及び研究領域

子どもの自己肯定感を育む授業づくり ～子どもも教師も達成感を得られる授業研究を通して～

研究領域
算数科

4 研究主題設定の理由

(1) 児童の実態

児童は、人懐っこく、素直であり、多くの児童が学習に対して一生懸命取り組んでいる。一方で、自分で考えて行動することや課題を解決するために話し合うことや、追求しようとする姿勢が発展途上であり、学力の二極化も見られる。また、国語科や算数科については、「記述問題において、何を問われているのか正確に読み、条件に合うように記述や選択、理由を書くことに課題がある」「作図や目盛りの読み取りなど、具体物の操作を覚えていない。」「0.1 や 0.01 などの基礎的な概念が正しく理解できていない」等、多くの課題が見られる。

校区には、魅力のある地域教材・教育資産があり、加えて、地域住民・保護者は学校教育活動に非常に協力的である。本校には、日々の活動で学んだことをより実生活に生かし、生きる力を育むことのできる教育活動を行うことができる環境が整っている。

(2) これまでの成果・課題

昨年度より、研究領域を算数科とし、研究主題を「一人ひとりの子に深い学びを」、サブテーマを「魅力ある授業づくり」に設定した。研究主題に向けて、それぞれの学年で「魅力ある授業」について考え、実践し、定期的に全校で進捗状況を交流した。また、「ふりかえりを5行以上書かせる」という具体的な取り組みを全校で統一して行った。このように、学年の実態に応じた指導と全校で統一した指導を並行して行いながら、1年間研修を深めることができた。以下が成果と課題である。

- 児童が算数用語を活用して、説明や振り返りができるようになった。
- 児童が実生活と結び付けて考える姿が増えた。
- 全教職員が授業の振り返り活動を意識して取り組んだことで、5行以上書くことができる児童が増え、内容もより良いものになった。
- 互見授業や板書交流を通して、他の教師の指導の工夫を見ることができ、参考になったとともに、見合う機会があることで、教師の授業改善につながった。
- 基礎基本の定着に差があり、当該学年での学習にスムーズに取り掛かることができない児童がいる。
- 校内研修と様々な事業を関連させ、教師の指導力の向上につなげる。

(3) 主題設定について

本校の課題を解決するため、基礎的・反復的な学習は引き続き必要不可欠であると考え。そこで、習熟度の状況を把握しやすく、全学年で統一して取り組みやすい算数科を研究領域とし、児童が日々の学習の中で達成感を得られる場面を意図的に設定することで、学習意欲や学力の向上につなげていく。そのような経験を積み重ねていくことで、子どもの自己肯定感の涵養につなげ、「もっとやってみたい」「学校が楽しい」という好循環が生まれることをねらいとする。教職員においては、研究主題に向けて、一人ひとりが重点的に取り組むテーマを決定し、主体的に授業実践を行う。



5 研究構想

児童の基礎学
力の定着及び
非認知能力の
育成

研究主題

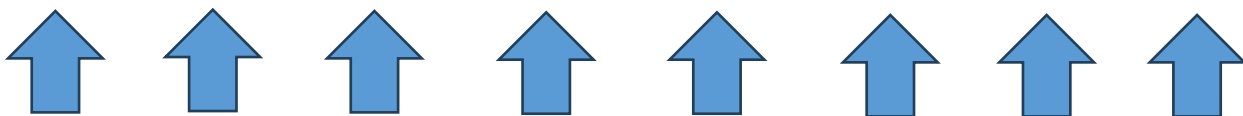
子どもの自己肯定感を育む授業づくり
～子どもも教師も達成感を得られる授業研究を通して～

教師の指導力の
向上

自己肯定感を育む授業づくり ～教師の研究の視点～

自己肯定感の涵養

授業の中での達成感
(できた・わかった・やってよかった)



学びの環境設定

課題設定の工夫

具体物・
ICT
の活用

協働学習

算数的思考の流れ

児童支援

自力解決

基礎基本の徹底

学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・「ぐんぐんタイム」の実施
- ・「キュービナ」の活用
- ・自主学習ノート
- ・家庭学習の習慣化
- ・基礎学力の反復学習の推進
- ・読書活動の充実
- ・学習の成功体験の蓄積
- ・学習規律の徹底

なかまづくり 子ども理解と子ども支援

- ・見つめる子レポートを活用した学級集団づくり及び子ども理解と支援の充実
- ・日々の人権教育を土台とした児童間の相互理解

話し合い活動の質の向上

- ・ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した話し合い活動の実施
- ・児童の実態に応じた座席の工夫など、話しやすい環境の設定

6 研究内容

自己肯定感を育む授業づくり

(1) 研修の方針

研究主題に向けて教師一人ひとりが研究したいテーマを決定し、テーマごとに4～5名のグループを作り、1年間研修を深めていく。月1回程度、グループ内及びグループ間で実践交流を行い、成果と課題を明確にすることで、教職員のスキルアップにつなげる。また、指導案の項目を「児童観及び手立て」、「自身のテーマにおける取り組み」、「本時の展開」、「本時の視点」とし、自身のテーマと関連した指導案を作成する。このように、教師自身が研修や日々の授業実践に主体的になれるような体制を整え、持続可能な研修を目指す。

(2) 授業研究の観点

○課題設定の工夫

- ・やってみたい・考えてみたいと思える課題、全員が取り組める課題、子どもが目的意識をもって取り組めるような課題などについて研究を深める。

○算数的思考の流れ、具体物・ICTの活用の工夫

- ・子どもが納得できる算数的思考の流れや具体的操作と抽象的思考のつながり、算数科における効果的なICT活用などについて研究を深める。

○児童支援・協働学習の工夫

- ・ペア活動の有効活用や多様な児童が探究的・協働的に学ぶための工夫、自他の理解などについて研究を深める。

○基礎基本・自力解決・学びの環境設定の工夫

- ・反復練習による基礎基本の徹底や自力解決の手立て、個に応じた学習の仕方、机間指導の有効活用などについて研究を深める。

(3) その他

- ・年8回（予定）、研究授業を実施する。
- ・相互参観ウィーク及び板書交流ウィークを設定する。
- ・日頃から、児童の様子を交流したり授業を見合ったりする雰囲気づくりを行う。
- ・年6回（予定）、OJTを実施する。

学びの土台づくり

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・自主学習ノート…課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。
- ・家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る。
- ・学びのマネジメント…6年生においては子ども自らが計画的に家庭学習を行う。いずれは、4年生以上が同様の家庭学習が行えるよう取り組みを進める。
- ・読書活動の充実…朝の読書やファミリー読書リレー等の読書活動を推進する。
- ・「ぐんぐんタイム」の実施と「キュービナ」の活用…月に1回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「キュービナ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2) なかまづくり・居心地の良い学級づくり、子ども理解と子ども支援

- ・生活部と連携し、なかまづくりや子ども理解、居心地の良い学級につなげるための見つめる子レポートを作成する。
- ・なかまづくりや学級づくり、SST、人権教育、いじめを見逃さない学校づくり、哲学対話などの研修を進める。